



別府市の立命館アジア太平洋大（APU）の学生ら3人が、木の幹を使用したブレンドティー「konoki（コノキ）」を開発しました。

①「konoki」は、どんな味がしますか？

緑茶のような味。木の香りが広がり、スッキリとした後味が楽しめる。

②3人は、どのようにして知り合いましたか？

立命館アジア太平洋大（APU）の起業家育成プログラム「出口塾」の塾長でもある出口治明学長を通じて知り合った。

③木からお茶を作ったのはなぜ？（ ）に入る言葉を考えてください。

林業を営む三浦妃己郎さんは、苦境に立たされる（国内林業）を再生させるために国産木の新しい活用法を思案していた。（酒だる）や（蒸茶）などにヒントを得て、国産木が飲み物にならないかと考えた。

④製品化に向けて、どのようにして資金を集めますか？

クラウドファンディング（インターネットを通じて、不特定多数の人々から資金を集める）

「木の香り」幹からお茶

林業再生へAPU学生ら開発

製品化に向け資金集め

【別府】別府市の立命館アジア太平洋大（APU）の起業家育成プログラム「出口塾」の学生ら3人が、スギなど国産木の幹を使用したブレンドティー「konoki（コノキ）」を開発した。製品化に向けたクラウドファンディングを6日から実施する。期間は8月3日まで。

「konoki」は、複数の木の幹を配合して作るブレンド茶。木の香りや成分が濃く出る特殊な新技術で製造することで、木に含まれるポリフェノールによる抗ウイルス効果や香りなどに由来する癒やし効果が期待

は同プログラムの塾長も務める出口治明学長を通じ知り合った。三浦さんは、苦境に立たされる国内林業を再生するために国産木の新しい活用方法を思案。酒だるや蒸茶などにヒントを得て、飲み物にならないかと考えた。試しに飲んでみると味、香りともに良く「これはいける」と自信を持った。3人で製品化を企画、専門機関に成分の調査を依頼するなどして「飲料品の開発に着手した。」

クラウドファンディングはインターネットサイト「READYFOR（レディフォー）」で実施。目標金額は150万円。3千円から支援ができる。お礼の品は製品版のお茶や杉のまな板、コップなど全12種類。集まった資金は製品化に向けた最終検査の費用などに充てるという。内山さんは「konokiを手にした人が少しでも森林に興味を持ってくれるとうれしい。将来的にはコンヒビの定番茶として多くの人に手にとってもらいたい」と話した。（大崎優生）

①「konoki」を開発した内山浩輝さん。木を使って作られたお茶。別府市亀川東町



2020年7月3日付 大分合同新聞 10面
(画像をカラー処理しています)